

広島県の地震

2026（令和8）年8月

目 次

広島県及びその周辺の地震活動…………… 1

震央分布図・断面図と地震概況

広島県における震度1以上の地震…………… 2

震度一覧表と震度分布図

地震メモ 第260回…………… 5

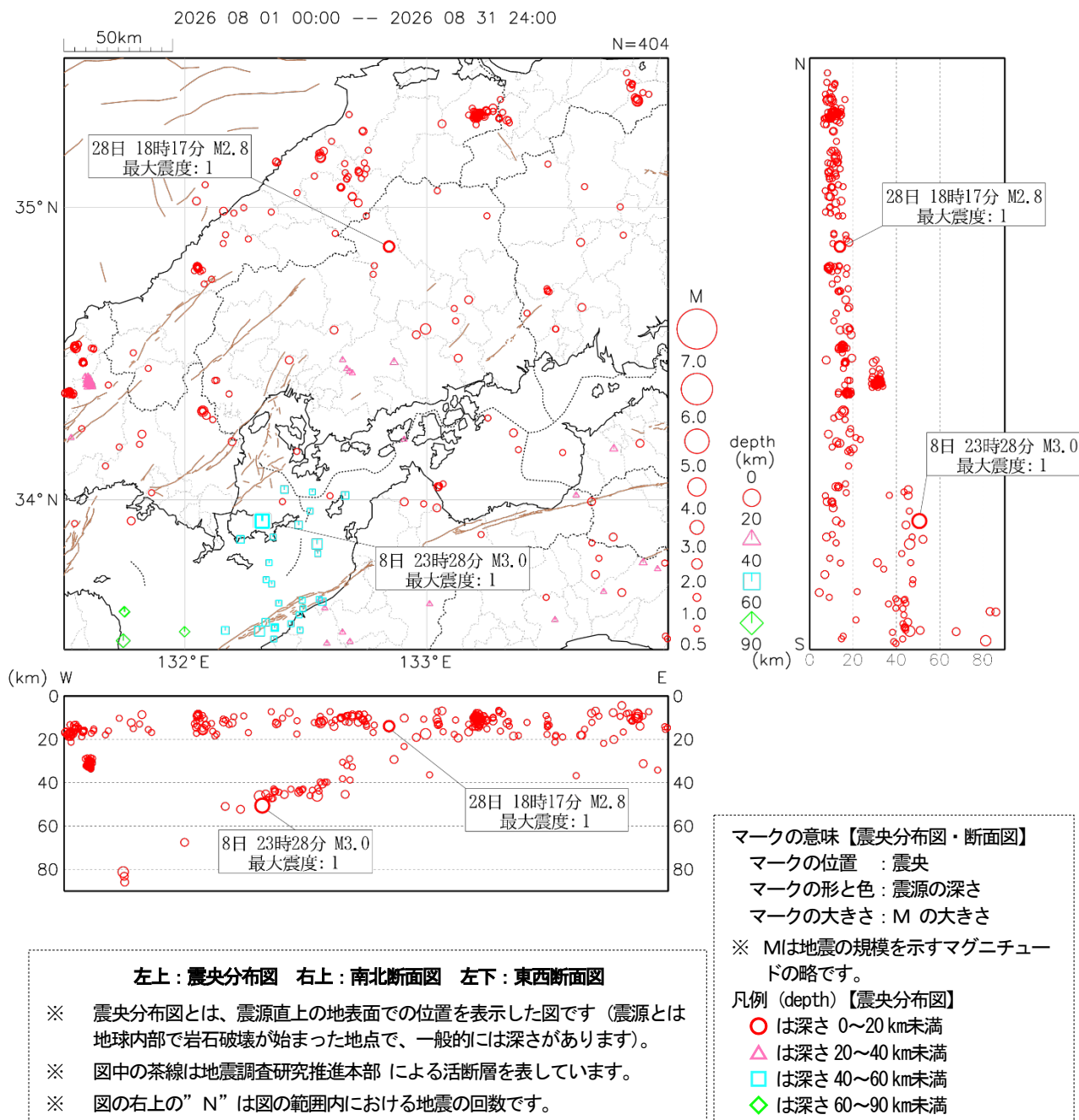
「液状化」について

広島地方気象台

広島県及びその周辺の地震活動

【震央分布図・断面図】

2026 年 8 月 1 日～8 月 31 日



【地震概況】

この期間、広島県内で震度1以上を観測した地震は4回でした（先月は7回）。

2日04時10分 日向灘の地震（深さ21km、M5.3、上図の範囲外）により、大分県、宮崎県で震度3を観測したほか、中国・四国・九州地方で震度2～1を観測しました。広島県では、呉市・大竹市・府中町・江田島市・大崎上島町で震度1を観測しました。

6日07時59分 熊本県天草・芦北地方の地震（深さ12km、M5.1、上図の範囲外）により、長崎県、熊本県、鹿児島県で震度4を観測したほか、中国・四国・九州地方で震度3～1を観測しました。広島県では府中町、江田島市で震度1を観測しました。

8日23時28分 安芸灘の地震（深さ51km、M3.0）により、広島県江田島市で震度1を観測しました。

28日18時17分 広島県北部の地震（深さ14km、M2.8）により、広島県三次市で震度1を観測しました。

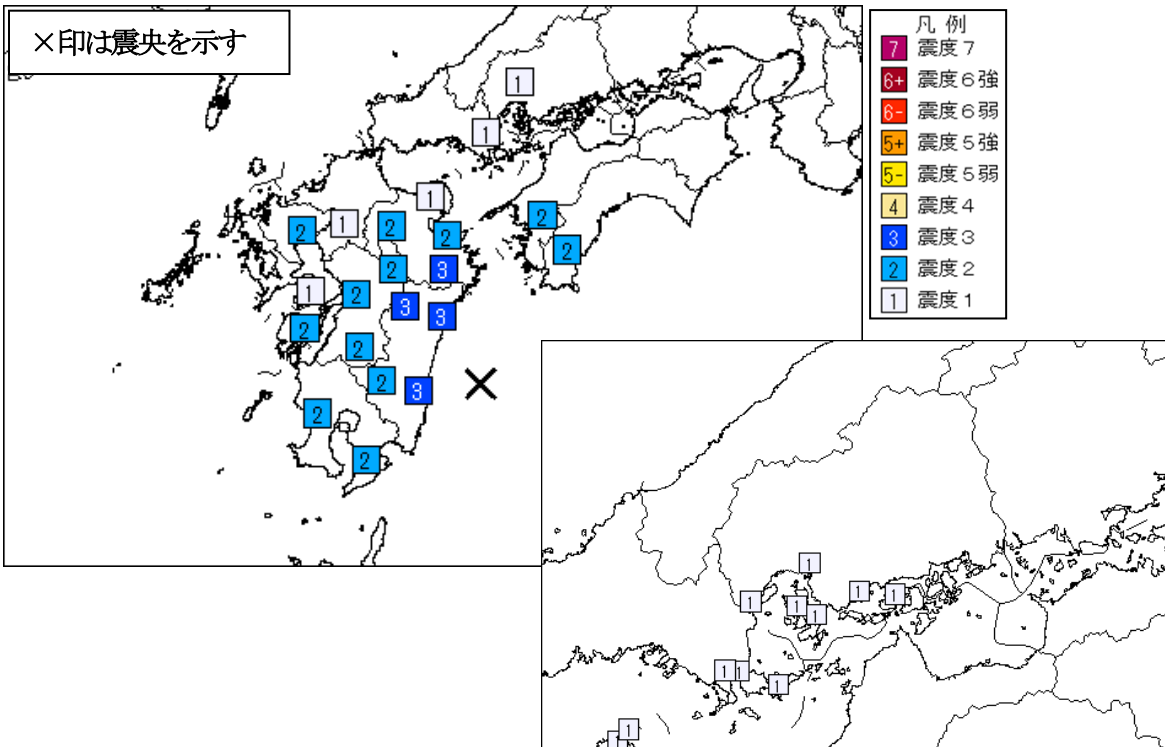
広島県における震度1以上の地震

【震度一覧表】

発震時刻（年月日時分）	震央地名	緯度	経度	深さ	M
広島県内の各地の震度					マグニチュード
2026年08月02日04時10分	日向灘	31° 57.1' N	132° 01.4' E	21km	M5.3
————— 地点震度 —————					
広島県 震度 1： 呉市音戸町＊, 呉市安浦町＊, 大竹市小方＊, 府中町大通り＊, 江田島市能美町＊ 大崎上島町東野＊					
2026年08月06日07時59分	熊本県天草・芦北地方	32° 29.3' N	130° 31.9' E	12km	M5.1
————— 地点震度 —————					
広島県 震度 1： 府中町大通り＊, 江田島市能美町＊					
2026年08月08日23時28分	安芸灘	33° 55.5' N	132° 19.2' E	51km	M3.0
————— 地点震度 —————					
広島県 震度 1： 江田島市沖美町＊					
2026年08月28日18時17分	広島県北部	34° 51.9' N	132° 50.6' E	14km	M2.8
————— 地点震度 —————					
広島県 震度 1： 広島三次市三次町＊					

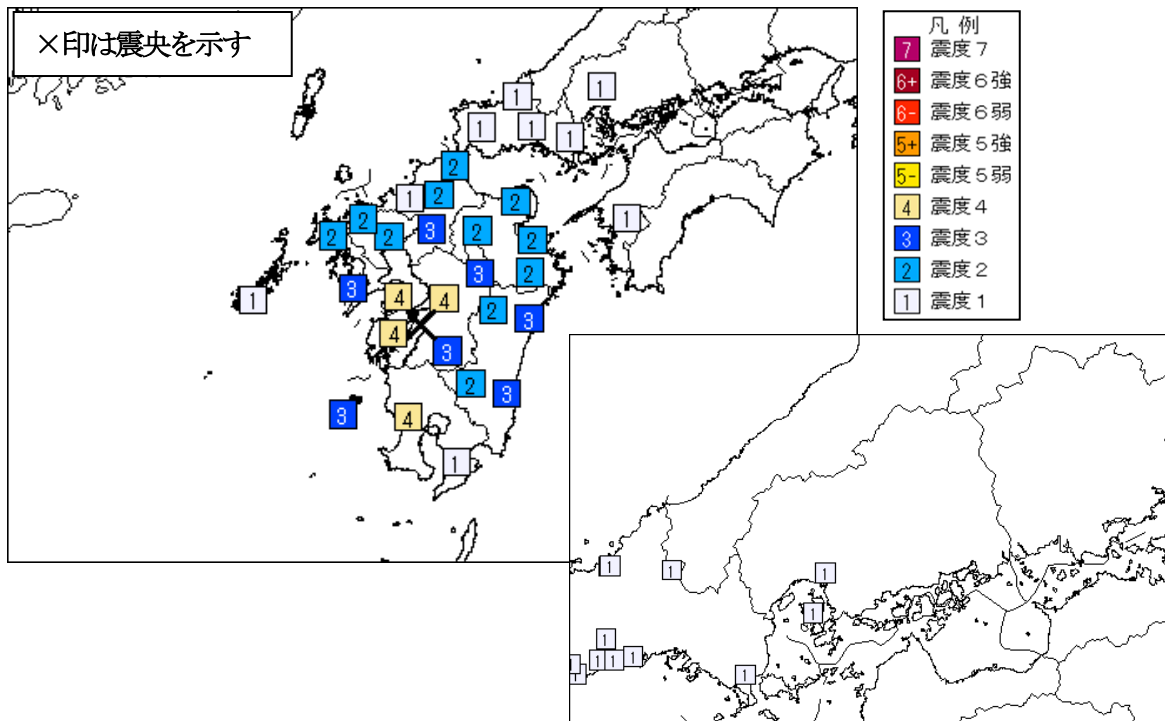
注）震度の地名に＊印を付したものは、広島県または防災科学技術研究所の震度観測点によるものです。

【震度分布図】



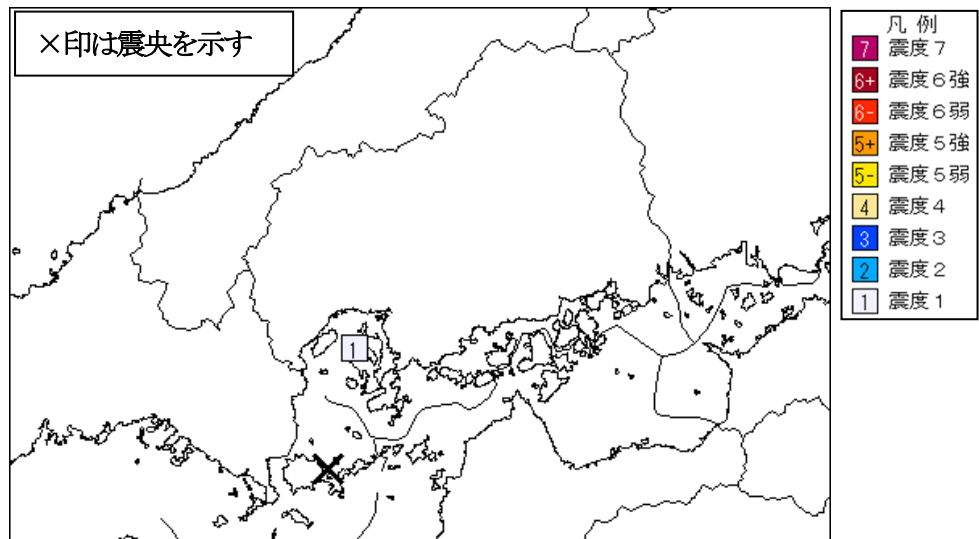
2026 年 8 月 2 日 04 時 10 分 日向灘の地震

(左上) 地域震度分布図、(右下) 広島県周辺の観測点震度分布図

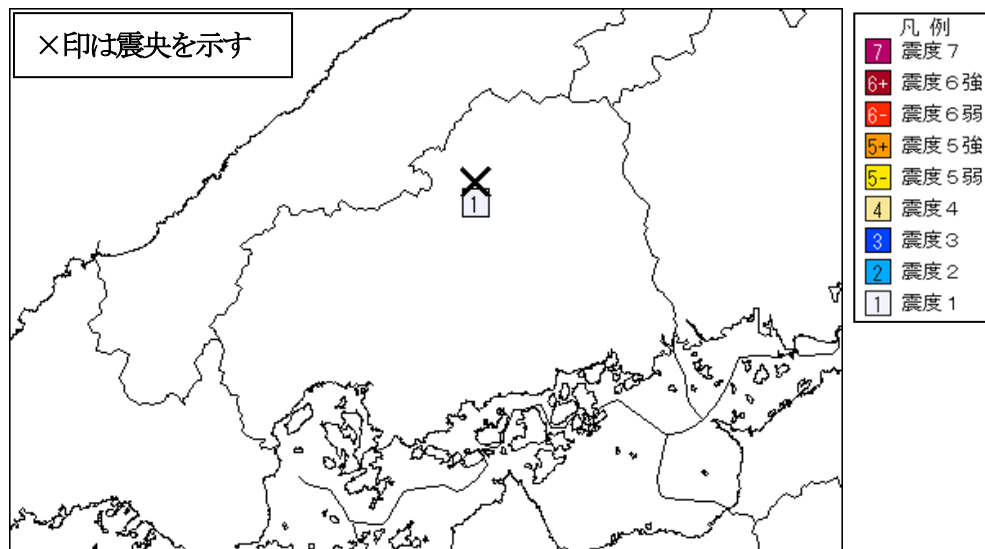


2026 年 8 月 6 日 07 時 59 分 熊本県天草・芦北地方の地震

(左上) 地域震度分布図、(右下) 広島県周辺の観測点震度分布図



2026 年 8 月 8 日 23 時 28 分 安芸灘の地震の観測点震度分布図



2026 年 8 月 28 日 18 時 17 分 広島県北部の地震の観測点震度分布図

今年1月6日に最大震度5強を観測した島根県東部の地震の際には、鳥取県、島根県の一部農地で液状化による被害が発生しました。今回は地震災害の一つである「液状化」について解説します。

○液状化とは

図1は液状化発生の模式図です。普段、水を多く含んだ地盤は①のように砂粒同士が支えあい、その間を水で満たされている状態で落ち着いています。地震により強い振動が加えられると、②のように砂粒の支えあいが崩れ、水と砂粒が一体となり液体のようになります。また、水が砂とともに噴出する噴砂現象も発生します。水が砂と共に地表へ噴出すると、③のように沈下・亀裂・陥没などの地盤変形が起こります。液状化が発生しやすい場所は、地下水位の高いゆるく堆積した砂地盤で、例えば、埋立地、干拓地などがあげられます。



図1 液状化のしくみ
(出典：地震調査研究推進本部 HP 一部加工)

○液状化による被害

右の写真は、「平成23年(2011年)東北地方太平洋沖地震」の際の関東地方での液状化による被害写真です。地盤が液状化すると地上の重い構造物等は沈み、一方、比重の小さい地下埋設管やマンホール等は浮き上がります。このため住宅の沈下や傾斜、道路やライフライン施設の被害など、地震後の生活に大きな影響を及ぼす被害が発生し、またこれらが複合的に発生することで影響は長期に及ぶことになります。



地盤沈下による水槽の傾き 歩道が陥没しマンホールが浮上
(出典：気象庁 災害時地震・津波速報)

○広島県で液状化が発生しやすい場所

図2は「広島県地震被害想定調査報告書」(以下、広島県 HP リンクに掲載)による南海トラフ巨大地震発生時の液状化の危険度分布です。液状化危険度※が「極めて高い・かなり高い」地域は、主に県東部から西部の沿岸部及び広島市西部沿岸の平地に分布しています。

お住いの地域における地震のリスクを把握しておくことは大切です。この機会に「広島県地震被害想定調査報告書」や自治体提供のハザードマップ等により、液状化を含む地震による地域のリスクを確認してみてください。

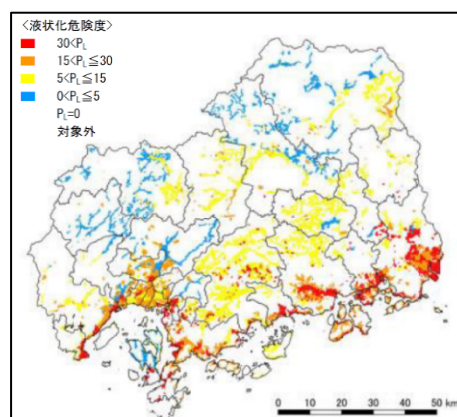


図2 南海トラフ巨大地震発生時(陸側ケース)の液状化危険度分布 (出典：広島県 HP 一部加工)

※PL 値：液状化の可能性を総合的に評価するための指標でPL 値が15 以上の場合、液状化の危険がかなり高いとされている。
30.0<PL：液状化危険度は極めて高い、15.0<PL≤30.0：液状化危険度はかなり高い、
5.0<PL≤15.0：液状化危険度は高い、0.0<PL≤5.0：液状化危険度は低い、PL=0.0：液状化危険度はかなり低い

広島県 HP

<https://www.pref.hiroshima.lg.jp/site/kikitorikumi/1181640340970.html>

本資料は、国立研究開発法人防災科学技術研究所、北海道大学、弘前大学、東北大学、東京大学、名古屋大学、京都大学、高知大学、九州大学、鹿児島大学、国立研究開発法人産業技術総合研究所、国土地理院、国立研究開発法人海洋研究開発機構、公益財団法人地震予知総合研究振興会、青森県、東京都、静岡県、神奈川県温泉地学研究所及び気象庁のデータを用いて作成しています。また、2016 年熊本地震合同観測グループのオンライン臨時観測点（河原、熊野座）、2022年能登半島における合同地震観測グループによるオンライン臨時観測点（よしが浦温泉、飯田小学校）、2025年トカラ列島近海における合同地震観測グループによるオンライン臨時観測点（平島、小宝島）、EarthScope Consortiumの観測点（台北、玉峰、寧安橋、玉里、台東）のデータを用いて作成しています。

なお、本資料の震源要素及び震度データは暫定値であり、後日再調査のうえ、修正されることがあります。

広島県の地震に関する問い合わせ先

〒730 - 0012

広島市中区上八丁堀 6 - 30 広島合同庁舎 4 号館 14 階

広島地方気象台 防災管理官室 TEL : 082 - 223 - 3953